



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

学校の「適正」な規模と配置は

市立小・中学校適正規模等検討委員会

10月14日、北茨城市立小中学校の適正規模等検討委員会の第1回の会議が開かれました。

同委員会は市教育委員会

の諮問に依りて、小学校と中学校の適正規模および適正配置についての基本的な考え方を検討するもので、議員(5名)、学識経験者(3名)、教育委員会が必要と認める人(4名)、保護者(3名)、学校関係者(2名)の計17名

の委員によって構成されています。会長には小室正博氏(元・市長公室長)、副会長に小野征也氏(社会教育委員)が選出されました。

中根教文教育委員長はあ

のまま受け入れるのは無理があり、本市としての独自の判断を示していただきたい」と述べました。

会議では、教育委員会から本市の児童・生徒数およびクラス数の現状と今後の推移(表参照)や、現在、富士ヶ丘小では2年生(8名)と3年生(8名)が複式学級になっていることなどが報告されました。

質疑で福田明委員は「県の指針は適正規模という言葉を使いながら、要するに小規模校は統廃合を推進せよという内容で、本市にはそのままではまらない。学力の点では小規模校のほうがよく身につくともいわれ、また世界の流れは学校の小規模・少人数クラス化の方向ともいわれている。小規模校にもメリット・デメリットがそれぞれあると思うが、本市の現状はどうか」と質問しました。

これに対して教育委員会は小規模校のメリットとして「教師が一人ひとりに目がいき、児童をよく把握で

学校ごとの児童・生徒数と学級数

年度	20年度		26年度	
	児童	学級	児童	学級
中一小	494	16	368	12
中二小	242	9	169	6
石岡小	91	6	76	6
精華小	549	18	572	20
明德小	227	9	196	7
中妻小	172	6	134	6
華川小	66	6	67	6
関南小	184	7	167	6
大津小	236	9	169	6
平潟小	214	7	156	6
関一小	126	6	98	6
富士小	55	5	32	3
計	2656	104	2204	90
中郷中	461	13	399	12
磯原中	446	12	369	11
華川中	124	5	109	4
常北中	334	9	305	9
関本中	109	5	74	3
計	1474	44	1256	39
合計	4130	148	3460	129

次回の会議は11月上旬、小・中学校の適正規模などが議題となる見込みで、年内には諮問への答申をおこなう予定です。

他の委員からも「小・中一貫教育とはどういうものか。本市でも可能なのかなど多数の意見が出されました。また教育委員会として、小中学校に関するアンケートを今月中に実施することも報告されました。



出来秋ともいわれますが、涼しくなると、今年も稲の収穫がすすんでいます。天気に追われるように次から次と忙しい農作業です。それでも、お米の詰まった袋が積み上がっていくのは素直にうれしい。インターネットとあるホームページに、黄金色でなく「米金色」と書いてコガネイロと読ませているのを見つけて、なるほどと納得しました。

米金色(こがねいろ) 北茨城市議会議員 鈴木やす子

わが家では、もう何年も前から、いつさい農薬も化学肥料も使わないで稲作をしています。病虫害はほとんどありませんが、雑草対策がうまくいかないと、とたんに収量が落ちてしまいます。それだけに穫れたてのお米を手にとると、愛おしく神々しさを感じます。おしいただくように研いで炊くと、まさに銀シャリ! 料理に腕をふるう方には怒られそうですが、うちの野菜の浅漬けがあれば、ほかに何もいらない。人間、おいしいものを食べて、機嫌が悪くなるはずはありません。こういうご飯を毎日しっかり食べれば、人はもつと穏やかに暮らせるのと思うのは飛び

躍でしょうか。まちなか育ちの私ですが、子どものころ、母に「米という漢字は、八十八と書く。お百姓さんが88の手間をかけて作っているのだよ」と、しっかりとすり込まれました。おいしくて完全食に近い穀物を、効率よく作ることでできる田んぼを、祖先たちは営々と耕し、広げてきました。それを今、なぜ作らせず、荒らしておかなければならないのでしょうか。お腹いっぱい食べられない子が世界には何億人もいるというのに。

いくら工業製品輸出の見返りという理屈を言ってみても、カネで他国の人の食料を奪い、さらに今度は国民の健康を害する事態を招いてまで輸入することにどんな大義があるというのでしょうか。怒りを通り越して悲しくすらあります。米は人の命をつなぐ食材であり、水田は私たち日本人の心の原風景です。将来にわたって、その誇りを捨てずに作りつづけられる社会、政治にしなければと思うのです。